

■ 平成30年8月27日 南部・東部地域振興対策特別委員会県内調査

1 五條高等学校賀名生分校（五條市）

【調査目的】実学教育の取り組みについて

【調査概要】五條高等学校賀名生分校における、実学教育の取り組み等の概要説明を受ける。

<説明の概要>

- 五條高等学校賀名生分校は、地元の農業後継者の育成、青少年への教育の機会均等を図ることを目的に、当時の吉野郡賀名生村が昭和25年に設置。現在の設置者は、五條市である。
- 全国募集に至った背景として、①五條市の基幹産業が農業であり、県内シェアトップである柿・梅などの果樹類、キャベツ・玉ねぎなどの野菜類、酪農・採卵鶏など、維持発展させなければならない農業ブランドが多いこと。②地域の子どもの数が、少子化や子育て世代の市外への流出等により、平成10年度以降の20年間で約3分の1まで減っていること。③基幹的農業従事者の減少及び高齢化が進んでいることが上げられる。

●賀名生分校の取り組み内容について

カリキュラム等について

- ・平成30年度より全国募集をするに当たって、仕事に結びつく学校にしようということから、実学重視の新しいカリキュラムへ移行。特に実習を重視し、地元農家や農業法人での実習を実施。3・4年生は、技術習得だけではなく仕事に対する責任感等を養うためカリキュラム外で就労を行っている。
- ・地元の農家での実習や就労により地域農業者と密接な関係を構築し、五條市に残って仕事をする生徒を増やしたいため4年制を維持している。卒業後の姿として、まずは農業法人等への雇用就労を目的としており、本人の意欲と努力次第で独立できるよう借地による営農の仕組みを構築し、五條市農業の維持だけでなく、移住から定住へと繋げていくことを考えている。

寄宿舍について

- ・五條病院の旧看護師寮を寄宿舍に改修。現在22名入寮。今後は二人部屋として利用するとともに、旧医師寮も寄宿舍として使用予定。
- ・各部屋は洋室で、バス・トイレ、ミニキッチン付き。五條市が畳ベットと机を準備。
- ・食事については、寄宿舍に厨房がないため、栄養士を置く業者から宅配を依頼。食堂兼談話室でみんなで食事を取っている。

その他

- ・通学はバス通学となり、JR五條駅から最寄りのバス停まで距離があることから、定期代が嵩み保護者の負担が大きいため、平成30年4月より、月額8,000円を超える分について補助する制度を創設。在校生についても同様の補助が受けられる。
- ・賀名生分校の全国募集、魅力化事業の取り組みは、賀名生分校の存続が目的ではなく、五條の農業の維持発展のため「移住から定住に」をコンセプトとしたまちづくりである。

- 平成30年度入学者選抜については、全国募集を行うため特色選抜を導入。募集人員30名のうち、特色選抜で24名、一般選抜で2名が合格し、平成30年4月に合計26名が入学した。なお、入学者26名中、17名が県外の学生である。



2 一般国道309号車坂工区（大淀町）

【調査目的】一般国道309号（車坂工区）の現地調査

【調査概要】事業概要の説明を受け、現場を見学

<説明の概要>

- 一般国道309号は、京奈和自動車道から下市、黒滝、天川方面へのアクセス道路であり、車坂峠交差点を改良することにより、渋滞の緩和、安全で円滑な通行の確保、地域の活性化を図ることを目的として道路改良工事を実施している。
- 車坂峠交差点は、特に御所から下市方面へ向けて通勤時間帯を中心に交通集中が著しいが、交差点部は片側1車線で右折レーンが設置されていないため、右折待ちの車両により渋滞が発生しやすく、また急勾配・急カーブによる視距不足の区間が交差点に近接しているため、事故発生の原因となっていた。
- 御所から下市方面へ向かう右折レーンの設置や、道路線形を改良することにより、渋滞緩和や交通安全を図るとともに、県中南和地域への観光振興が期待される。
- 事業年度は、平成24年度から平成30年度までであり、工事は、平成29年度より実施している。
- 残工事は、交差点の切り下げ、標識柱、照明灯、舗装工事であり、平成31年2月完成を予定している。
- 工事の概要
 - ・事業年度：平成24年度～平成30年度
 - ・事業延長：300m
 - ・幅員：道路幅員9.75m、右折レーン設置部分12.75m
 - ・事業概要：掘削工、舗装工、排水構造物工一式

